

平成30年度 第1回 富谷市総合計画審議会 会議録

日 時：2018年7月27日（金） 10時30分～12時00分

場 所：富谷市まちづくり産業交流プラザ

参加者：富谷市総合計画審議会 出席委員10名 欠席委員3名

：富谷市 3名

：事務局 6名

：オブザーバー（東北福祉大学学生） 2名

1 開会（司会：企画部長）

2 市長挨拶（若生市長）

本日はお忙しい中お集まりいただき、また日頃よりそれぞれの立場から当市にご協力いただき感謝申し上げます。

今回は、この7月1日にオープンしたばかりの富谷市まちづくり産業交流プラザ、通称「TOMI+（とみぷら）」での開催です。とみぷらの名称は公募により決定しまして、「TOMIYAの生活にちょこっとプラス」というのが由来です。起業創業支援の拠点となり、高齢者の就労支援との観点からシルバー人材センターも入ります。また、3階には民俗ギャラリーも入ります。地方創生拠点整備交付金を活用し、起業創業の拠点となる施設として整備をしました。

また、起業塾である「富谷塾」を実施しますが、30代～40代を中心に40名ほどの申込があり、さらに女性の割合が多いのが特長です。新たなことが始まるという期待が高まります。

委員の皆様には、以前、富谷市地方創生総合戦略の策定や富谷市総合計画の策定にもご尽力いただきました。ありがとうございました。本日は総合戦略の進行管理ということで、取組状況を報告させていただきます。KPI等については、ほぼ達成しており、これも皆様のご協力のおかげと思っております。本日の皆様からのご意見を踏まえ、「住みたくなるまち日本一」の実現に向けて、さらに努力してまいりますので、引き続きよろしくお願い致します。

3 議事

（1）会長の選任について

互選により、会長に草間委員が就く。

（会長あいさつ）

会長に推挙された草間です。この施設は、交付金対象事業費の上限を超える交付決定

があったとのことでしたが、通常このようなことはありません。改めて、市長はじめ、職員の皆さんに敬意を表したいと思います。

地方創生の取組ですが、私は他の自治体でも委員をやっていますが、富谷市はその必要がないと思えるくらい成長している市です。富谷市ではいろんな仕掛けをし、目標やK P Iを達成していますが、他の自治体の中にはそうでないケースもあり、説明が釈明になっていることもあります。

これからの自治体は勝ち続けなければならない、その先にあるのが、若生市長がおっしゃっている「住みたくなるまち日本一」の実現かと思います。そのために委員の皆さんの英知をお借りできればと思います。忌憚のないご意見をいただき、富谷市の発展に寄与する審議会にしたいと思いますので、皆さん、よろしくお願い致します。

※ここから、会長が議長となり議事が進行された。

(会長職務代理者の指定について)

会長の指定により、職務代理者に佐々木委員が就く。

(2) 富谷市地方創生総合戦略の平成29年度の取組内容の評価・検証について

(草間会長)

それでは、議事の(2) 富谷市地方創生総合戦略の平成29年度の取組内容の評価・検証について、事務局から一括で説明をお願いしたいと思います。

(事務局)

まず、今回、お集まりいただきました根拠からご説明させていただきます。根拠は「富谷市地方創生総合戦略」の第1章の(3)「計画期間と管理体制」に定められており、K P I等の評価・検証については、産学官金言の各分野から構成される「富谷市総合計画審議会」で行い、それを議会に報告し、公表することとしています。また、「富谷市総合計画審議会」の議論や議会の意見を経て、基本目標や具体的な施策の見直しや改善を図ることとしています。以上を根拠に、この度、審議会を開催させていただき、皆様に総合戦略の進捗の報告を行い、評価・検証を行って頂くこととなりますので、どうぞよろしくお願い致します。

では、配布しています(資料)に基づき、進捗の報告を行います。

(資料により進捗報告)

(草間会長)

ありがとうございました。まず、資料の表面から、皆さんご意見をお願いします。

(石井委員)

子どもで言うとよい成績の通信簿を見ているようです。富谷はマスコミ報道が多くポジティブな内容ばかりでうらやましいです。K P I は市が主体のものは満点です。ただし、これで満足せず、弱点を強化することで”住みたくなるまち日本一”が実現できると思います。良いときだからこそさらなる推進が必要だと思います。さらに期待しています。

(田中委員)

とみや国際スイーツ博覧会は今年で3年目ですが、交流人口ということから言えば、一過性のイベントで終わることなく、富谷宿での回遊など富谷への訪問者の滞在時間を増やす取組が必要と考えています。

(草間会長)

導線強化、次につなげる仕掛けということになるかと思います。これだけ人が集まっているイベントも珍しいです。

(平岡委員)

とてもよくできていると思います。交通の取組について、利用者にとって必要なものは残すようにしてほしいと思います。また、各種行事の参加者を逃さないよう今後も取り組んでほしいです。

(小松委員)

今年10月から取り組む予定のタクシー助成について、障がい者支援としてだけでなく、一人暮らし高齢者にも必要ではないかと思っています。

(草間会長)

通勤通学対策、交通弱者対策としてどう対応していくかという問題です。タクシー、ウーバーといった仕掛けが考えられます。課題が多いと思いますが、交通弱者の方に、きめ細かく、乗りやすいものにして頂ければと思います。

(佐々木委員)

基本目標3のところで、子育て世帯が減少しています。富谷のさらなる発展を考えた場合、一度、富谷を出た人が富谷に戻って来ることが必要だと思います。そのためにはどうすればいいかを考えなければならないと思います。自治体によっては、人口増だが出生数が減少しているという状況があり、原因を探っているところもあります。富谷も同様に考えてみてもいいのではないかと思います。

(草間会長)

Uターン戦略、富谷にとどまってもらう施策になります。出生率が回復しているフランス、スウェーデン、デンマークなどでは、子育て支援に非常にたくさんのお金を使っているようです。

(大川委員)

目標値に対して実績・達成が多いことは素晴らしいですが、最初の目標値の設定が適切だったのかという気もします。ただ、目標を達成すればまた新たな目標が設定できますし、それもクリアしてくれるものと期待します。

富谷・黒川地域は、大型の工場は来ていますが、企業の新規参入や零細企業の起業が少ないと感じています。人口が増えている地域において、この課題も考えないといけな いと思います。新たに完成したとみぶらを活用し、新規開業に向けて力を入れていきたいと考えています。

(草間会長)

起業について、繋がりや資金提供などのフォローが大切になります。とみぶらで起業したとして、例えばとみぶらを出た後のフォローの継続を考えても良いのではないのでしょうか。支援がスタートでのフォローのみというケースがよくあります。また、起業には金融機関の知見も重要になります。

それと、今のご意見は、戦略の目標を達成したら目標値の上乗せが必要、ということだと思います。

(草野委員)

人口減少社会においては地域間競争になります。人口を減らさないためには20年後、30年後を見据えた魅力的なビジョンが必要だと思います。

また、とみぶらができたということで、若い起業家の創出、高齢者の活用、女性等多様性の活用が重要になると思います。

その他、高齢者ということであると、最近、高齢者から、バス停、町内会館、ゴミステーションに行くことも難しくなってきたという声を聞くので、今後、対策が必要になるのではないかと感じています。

(草間会長)

人の移動の問題になります。人に来てもらうのか、こちらから行くのかということですね。全国共通の課題だと思います。過疎地域において、何かしら参考となる事例があるのではないかと思います。

地域間競争について、先程の大川委員の発言に関連して、今後、トヨタ自動車東日本

東富士工場が近隣自治体の工場に集約されますので、例えば住宅の確保等によりその活力をいかに富谷市にも取り込むかが大事になると思います。

(佐藤(忠) 委員)

トヨタ自動車東日本東富士工場の移転で社員1,000人程の移動は確定しており、当行としても様々情報収集等を行います。富谷市としても、長く住んでもらうことで税収増が見込めるのではないのでしょうか。また、今後の開発も考えられることから、市と意見交換しながら、土地の活用等、力を発揮できればと思います。先日、富谷市は2040年まで人口増を続けるとの推計が示されましたが、企業からすると働く人が確保できる魅力的な地域となります。スイーツの取組も魅力があります。また、これまでも取り組んでいる交通対策にも積極的に取り組んでいくべきと考えています。とみぶら関連として、金融機関としては、市の振興資金の活用など企業が長く事業を行えるようバックアップしていきたいと思います。

(草間会長)

転勤等で移動したときに一番心配されるのが子どもの保育・教育についてです。自治体の移住関係の窓口では、子育て、教育、住居、病院等を全て担うワンストップで行う担当課があるところもあります。そういったこと実施し、企業に対して富谷市を打ち出してはどうでしょうか。

(小山委員)

学校現場の人間としましては、基本目標3に最も興味があります。KPIとは離れるかもしれませんが、子ども環境の充実には学校現場も含まれます。学校図書の新入費、生徒用タブレット、特別支援教育の支援員などは、他の市町村に比べて富谷はとても充実しています。以前、成田中学校にいたとき、宮城に移転することになった東京エレクトロンだったと思いますが、そこに向けた地域紹介のために学校の撮影依頼を受けたことがありました。関東圏の方々は、働く方の通勤距離・時間よりも子どもの教育環境の充実を求めているとのことでした。

(草間会長)

民間で言うと、こういったところにビジネスチャンスがあります。移住のためのサポートを先駆けてやっているとPRすることが大事です。企業に売り込みに行くのもいいと思います。

(小松委員)

孫の親達の会話で、小学校選びの話題がありました。最近、通り魔事件などを耳にし

ます。仙台市の学校のなかには、小学校入学時に防犯ブザーを配布しているところがあります。富谷市にはありません。通学で送り迎えができることもあればそうでないこともありますので、親としては安全・安心のために防犯ブザーがあったほうがよいということになります。バスの送り迎えがあり通学時の安心がある私立学校が選ばれることもありますので、富谷でも安全・安心のため防犯ブザーを配ってはどうでしょうか。

(草間会長)

続いて、裏面の交付金充当事業について、ご意見願います。

(石井委員)

裏面の(2)、とみぷら関連です。富谷の“ヘソ”がほしいと思います。先程、田中委員の発言がありましたが、イベントで人は呼べますが、日常で人を呼ぶことが課題になります。年1回のイベントの起爆剤だけでは満足できません。そうすると、人を呼べるマグネットとなるヘソがほしいです。開宿400年はそういったものになりえます。インバウンドということであると、“和文化”が外国人を惹きつけます。相撲の仙台巡業のチケット付きツアーは即完売でした。“宿場町”で、国内外の方に来ていただく“ヘソ”を作ってはどうでしょうか。この辺りがもともと富谷の中心だったとPRすることで市民のプライドにもなります。とみぷらという拠点が整備されたので、次のステップ、開宿400年の後の取組も推進して欲しいと思います。

(草間会長)

他にございませんか。

では、最後に私からということで、とみやスイーツに関連して、次の富谷のブランドを考えるとときに、茨城県にまで飲食店等を店舗展開している富谷市本社の企業と連携してはどうでしょうか。富谷に関連したメニューを取り扱ってもらくと、富谷市の発信力がものすごく高まります。

市内市立幼稚園、小中学校において、ユネスコスクールに加盟申請中とのことですが、登録が完了したら”ユネスコサミット”を開催してはどうでしょうか。こちら発信が大事で、インバウンドや交流人口の増加に繋がると思います。

また、市内企業のビジネスの繋がり、横の繋がりが今後の富谷に必要なだと思いますので、「工業団地会」をつくり、横の繋がりのできる機会を企画してはどうでしょうか。

金融機関との繋がりを持つことも大切です。

(事務局)

たくさんのご意見、どうもありがとうございました。

最後に、富谷市教育長より閉会のごあいさつを申し上げます。

(教育長)

多方面にわたり豊富な知識と実績をお持ちの皆さんのご意見が、我々にとって大きな力となっており、今後もなっていくしますので、今後ともよろしくお願い致します。本日はありがとうございました。

以上